

平成27年度 事業報告書



宍粟市協発足10周年記念講演会（H27.9.6 山崎文化会館）

社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会

もくじ

平成 27 年度実施事業と決算状況のまとめ	1 ~ 4
-----------------------	-------

推進目標 1 自治会域での福祉のつながりづくりを進めます

活動項目 1 - 1 福祉連絡会の組織強化	5
活動項目 1 - 2 自治会福祉連絡会の活動強化	6
活動項目 1 - 3 小地域福祉活動の担い手づくり	8

推進目標 2 宍粟市全域での福祉のつながりづくりを進めます

活動項目 2 - 1 新たなニーズに対応する当事者組織支援の強化 . .	9
活動項目 2 - 2 地域や学校での福祉学習の強化	11
活動項目 2 - 3 ボランティア・市民活動の強化	12
活動項目 2 - 4 災害救援活動の強化	14

推進目標 3 地域での暮らしを支えるためのつながりづくりを進めます

活動項目 3 - 1 総合相談事業の強化	16
活動項目 3 - 2 権利擁護活動の推進	18
活動項目 3 - 3 新しい地域福祉サービスの開発・実施	18
活動項目 3 - 4 限界集落化していく地域での福祉活動の推進 . . .	19

推進目標 4 社会福祉協議会の基盤強化を進めます

活動項目 4 - 1 幅広い住民が社協活動に参加できる仕組みづくり .	20
活動項目 4 - 2 支部地域福祉推進委員会の活性化	22
活動項目 4 - 3 地域福祉活動財源の安定的確保	22
活動項目 4 - 4 職員の育成と研修強化	23
活動項目 4 - 5 安定した介護保険事業経営をめざす取り組み . . .	24

別記 その他の社協事業の取り組み	27
----------------------------	----

宍粟市社協 10 周年記念事業	29
---------------------------	----

平成27年度事業に関する主要報告

1. 平成27年度の状況について

- 平成27年4月1日から3月31日までの本会の実施事業は、別添「平成27年度事業報告書（本編およびデータ編）」のとおりです。事業報告書（本編）は、「第2次地域福祉推進計画（つながりふくしプラン）」の推進目標と活動項目ごとにまとめました。ここには「つながりづくり」をキーワードに、身近で様々な福祉活動が地域で展開されている事例が溢れています。社協が地域福祉を推進する重要な役割を果たしている証しです。これらの活動の中にあって、平成27年度の特徴的な取り組みを次にあげます。
- 第5期役員が6月30日で任期満了となり、7月1日から第6期の役員体制となりました。理事会は11回開催し、その時々課題に対する確かな方針決定を行い、評議員会は定期2回（5月、3月）開催しました。役員学習については、8月の社会福祉夏季大学参加、役職員業務研究会に係る研究と2月の発表会等と、学習の機会も多く設けました。
- 第2次推進計画の最終年次として、振り返りや課題の整理、新たな生活・福祉課題を明らかにしながら、第3次地域福祉推進計画の策定に取り組みました。策定委員会は、前流通科学大学教授の松澤賢治さんを委員長に迎え、6月から年度内においては策定委員会10回、作業部会は23回を行いながら、策定作業に精力的に取り組み、平成28年6月に完成の予定です。
- 西播磨管内の児童養護施設で生活するこどもたちを4泊5日間、宍粟市内の家庭で受け入れ、こどもたちがあたたかい家庭の雰囲気を経験する「こどもホームステイ事業」を60年継続実施してきたことを記念し、6月14日、一宮健康福祉センターで「こどもホームステイ60周年記念フォーラム」を実施しました。今、全国的に問題となっている「子どもの貧困」を取り上げ、「すべてのこどもたちのしあわせづくりのために～子どもの貧困を考える～」テーマに取り組んだ記念フォーラムに、100名の参加がありました。子どもの貧困問題と児童虐待、そして児童養護の課題について考える有意義な会となりました。
- 宍粟市社協発足10周年を記念し、「宍粟市社協10周年記念事業」に取り組みました。「記念式典」と「記念講演会」は、9月6日、山崎文化会館に約700名の市民の参加を得て盛大に実施することができました。福祉活動功労者13名の表彰と、89のボランティアグループ・団体へ感謝状を贈呈、復元納棺師笹原似子さんの『心のおくりびと 3. 11大震災から』と題した記念講演会等、10周年にふさわしい取り組みとなりました。1月には、発足10周年を振り返る「10周年記念誌」を（700部）発行し、関係者、関係機関へ送付しました。
- 宍粟市と宍粟市社協が「災害時におけるボランティア活動等に関する協定書」の調印を8月に行

いました。大規模災害時に災害ボランティアセンターを設置するための協定です。11月には宍粟市が行う宍粟市総合防災訓練に、社協として初めて参加し、行政と連携した災害ボランティアセンターの設置訓練を行いました。

- 支部地域福祉推進委員会は、それぞれの支部の特性を活かした活動を行っています。また、支部かわら版（山崎：「えんがわ」一宮：「i LOVE いちのみや」波賀：「ほっこり通信」千種：「わく湧くちくさ」）の発行は継続しています。しかし、第2次推進計画に示していた支部計画の策定は実施することができませんでした。第3次地域福祉推進計画の中に位置づけることで、具体化するこだわりをもつ必要があります。
- 西播磨圏域（4市3町）において平成26年4月に設置された「西播磨圏域成年後見支援センター」設立準備委員会は、平成27年度3回にわたる協議の結果、平成28年度5月に、たつの市社協揖保川支所に設置されることになりました。ここでは成年後見制度の普及、利用促進、専門的な相談支援、「市民後見人」の育成・支援を目的に活動を進めます。
- 社会福祉法が改正され、社会福祉法人に対する公益性の確保が求められます。この動きについて、県社協からは、市町社協に地域の社会福祉法人との協働による公益的な取り組みを具体化するなど、早急な検討と対応が求められています。この呼びかけに対し、3月に宍粟市内の社会福祉法人連絡会設置に向けた意見交換会を開催しました。案内は、高齢者、障がい者、児童の分野ごとに呼びかけ、6法人の参加があり、社会福祉法人の連絡体の必要性について意見交換を行いました。

2. 平成27年度決算状況について

- 平成27年度は、社会福祉法人新会計基準を対応した経理、決算については順調に行いましたが、昨年度に続き赤字を計上しました。
- 法人全体の収支状況は、14,120千円の減収、29,674千円の減益、赤字は35,259千円（前年度の6.3倍）となりました。
- 事業区分で見ると、社会福祉事業区分は15,668千円の減収、30,695千円の減益、33,273千円の赤字（前年度の1.3倍）。公益事業区分は1,547千円の増収、1,021千円増益（で改善）しましたが、1,986千円の赤字です。
- 拠点区分別では、法人運営事業と障害福祉事業が黒字ですが、地域支援事業、生活支援事業、そして介護保険事業が赤字となりました。赤字幅は、地域支援事業は24,279千円（7,058千円の支出増により前年度の1.4倍）、生活支援事業は6,369千円（2,365千円改善）、介護保険事業は12,436千円（前年度は3,645千円の黒字）となっています。

- このうち、地域支援事業、生活支援事業の赤字増加、改善に影響しているのは主に人件費です。地域支援の支出増はコミュニティワーカー1名増員と、常勤の交代による人件費増。生活支援は、介護予防（お達者クラブ）事業で常勤から非常勤への交代による人件費減による改善です。
- 介護保険事業全体では、15,941千円の減収、16,082千円の減益、12,436千円の赤字を記録しました。
- 訪問入浴介護事業は、2,452千円の減収、2,758千円の減益、6,301千円（昨年度の1.7倍）の赤字。訪問介護事業は全体で7,202千円の減収、5,538千円の減益、9,372千円（昨年度の2.4倍）の赤字です。いっしょに実施している障害居宅事業は1,731千円の増収、1,508千円の増益、7,276千円の黒字なので、合計すると2,096千円の赤字です。介護保険事業は月ごとの事業量の増減が大きいのに比べ、障害サービス事業はその増減が少なく推移しています。通所介護事業は4,850千円の減収、8,201千円の減益、4,834千円の赤字です。
- 赤字の要因としては、減収（15,941千円）は27年4月からの介護報酬引き下げに加え、訪問介護事業、通所介護事業、訪問入浴介護事業とも利用者の伸び悩み（利用者減）によるもので、介護保険事業全体に大きな影響を与えています。加えて通所介護事業は、サービス充実のための看護職員補充の人件費増も影響しました。
- 介護保険事業が赤字経営となっていることが、地域支援事業、生活支援事業にも大きな影響を与えています。この状況を真摯に受けとめ、介護保険事業だけでなく、地域支援事業、生活支援事業についても抜本的な見直しが必要です。
- 宍粟市社会福祉協議会は、公共性・公益性の高い地域福祉を推進する中核的な団体として、その経営理念を明確にし、地域福祉財源のあり方や介護保険事業のあり方、人件費の見直しと職員配置等についても検討を行う必要があります。第3次地域福祉推進計画にもあげている「経営検討委員会」の設置を急ぎ、今後の社協のあり方を検討・協議を進め、その方向性を「経営改善計画」として示すことが現時点での重要な課題です。

3. 人事労務管理・法令遵守等について

<職員数と配置状況>

平成28年4月1日現在での職員数は、106名であり、内訳は次のとおりです。

本部/支部	正規職員	常勤職員	非常勤職員	合計
本部一宮支部	13	15	18	46
山崎支部	10	7	12	29
波賀支部	3	7	7	17

千種支部	4	2	8	14
合計	30	31	45	106

- 平成27年度末の定年退職者の補充を行うために、8月に正規職員採用試験を実施し、新年度からの生活支援コーディネーター配置や介護事業分野の年度末退職者等のことも考慮し、正規職員2名（20歳代）を採用しました。
- 退職者については、年度途中で運転員3名が自己都合で退職しましたが、年度末には定年退職者3名（正規1・常勤2）、自己都合7名（正規2、非常勤5）、再雇用期間満了2名（非常勤2）、期間満了4名（常勤2、非常勤2）、合計16名が退職しました。これら退職者の補充等のため平成28年度4月1日の異動は大きなものとなりました。

< 人事考課への取り組み >

平成20年度から正規職員、常勤職員の人事考課を実施しています。平成23年度からは、人事考課の結果を昇給に反映する仕組みを取り入れ、平成26年度からは目標考課を導入しました。実施時期は、年度末前の1月から2月上旬です。考課終了後にフィードバック面接を行います。なお、「目標考課」については、部署目標と個人目標を提出させ、年間の目標を到達できたかどうか評価する仕組みとしています。

< コンプライアンスへの対応 >

● 労基法等への対応

- ◇ 36協定 会長と職員代表で締結し姫路労基署へ3月下旬提出しています。
- ◇ 24条協定 給与控除について届出の義務はありませんが協定を作成しています。
- ◇ 39条協定 年次有給休暇の時間単位の取得について就業規則に明記しています。

● 労働安全衛生法への対応

産業医にJAハリマみどり診療所山田博史医師を選任しています。安全衛生管理者には元宍粟市保健師の榎谷さよ子さんと委託契約を結んでいます。

- ◇ 特定保健指導 安全衛生管理者から指導を受けています。職員健診結果については、産業医である山田医師から有所見者に対して指示を受けています。
- ◇ 固定資産税 山崎町鹿沢の所有土地の固定資産税を納付（4期）しました。
- ◇ 消費税の納税 5月に申告し、法定どおり年2回に分けて納付しました。
- ◇ 安全運転管理者の選任 本部に管理者と副安全運転管理者を選任し、各支部に管理者1名を選任。合計5名選任しました。
- ◇ 私用車業務使用許可申請 所有者の承諾も取るようにしました。
- ◇ マイカー通勤許可申請 同様に申請を促しました。
- ◇ 事業所健診の実施 平成27年8月28日（金）に全職員に対して実施。健診結果を労基署へ報告。事後指導の実施。

推進目標 1 自治会域での福祉のつながりづくりを進めます

活動項目 1 - 1 福祉連絡会の組織強化

善意銀行預託金を活用

「第2期小地域福祉活動モデル地区事業」の第2期が終了

平成26年度から第2期モデル地区として指定した6自治会について、その地域の状況に合わせた福祉活動や組織づくりなど、活動目標の実現に向けた2年間の取り組みが終了しました。



「ご近所ふれあい市」を定期的に開催
(五十波福祉連絡会)



関係者が集まり福祉活動について話し合い
(6/18 倉床福祉連絡会)

指定地区 (構成員)	活動目標	活動状況
五十波自治会 (17名)	定期的に福祉連絡会を開催し見守り活動を強化する。ふれあい喫茶に加え新たにサロンを開催する。ご近所ボランティア「e生活応援し隊」の活動を広げる。	福祉連絡会の開催、ふれあい喫茶・サロンの開催、ご近所ふれあい市の開催、ご近所ボランティア「e生活応援し隊」による活動
上ノ上自治会 (20名)	福祉連絡会の組織を見直し、見守り活動の強化を行う。住民同士の絆を深めるため世代交流活動の場を増やす。	福祉連絡会の開催、ふれあい喫茶の開催 世代交流事業の開催
上野田自治会 (12名)	福祉連絡会で話し合い自治会みんなが参加できる活動を計画的に進める。行事や活動を通し、地域のつながりを構築したい。	連絡会議、計画作成、ふれあい喫茶、上野田映画館、いきいき百歳体操の支援、公民館周辺の美化活動、自治会防災研修会、三世代交流運動会、防災訓練・炊き出し訓練の実施
倉床自治会 (16名)	福祉連絡会の位置づけをきちんとする。学習委員と協力しふれあい喫茶で学習会を行いたい。	連絡会議、計画作成、ふれあい喫茶、学習委員と協力した「暮らしの困りごとについて」アンケート実施、配り物・行事の呼びかけを兼ねて高齢者宅を隣保長・民生委員が訪問
日見谷自治会 (14名)	「福祉連絡会」の組織をつくり、自治会の中で福祉活動の事業を定着させる。福祉連絡会の関係者で話し合いながら、たくさんの方が活動や行事に参加してもらえるように進めたい。また、ご近所ボランティアについても検討し、学習会や試行実施を行うなど、活動の幅を広げていきたい。	福祉連絡会(4回) 計画作成、学習会、サロンの打合せ(各1回) 一人暮らし高齢者等への訪問活動(月1回) ふれあい喫茶(5回) 100歳体操の支援、見守り活動について住民同士の話し合い、ふれあいサロン(バザー)
中島自治会 (12名)	集う、考える、楽しむをテーマに住民誰もが参加できる企画を連絡会で話し合いながら進めていきたい。 福祉連絡会はいざという時に「寄れる」組織としてつながりを深めていきたい。	連絡会議(2回) 計画作成、ふれあい喫茶、ひとり暮らしのつどい(1回) 福祉学習会の開催

154 自治会へ小地域福祉活動助成金を交付

各自治会が自治会の状況に応じた福祉活動に取り組んでいけるよう、自治会に「小地域福祉活動助成金」の申請を呼びかけ、154 自治会に助成金を交付しました。

支部	自治会数	申請自治会数	助成金額
山崎	85	84	2,367,300円
一宮	39	39	1,016,300円
波賀	19	19	479,600円
千種	13	12	316,400円
合計	156自治会	154自治会	4,179,600円
前年比		±0	34,500円

小地域福祉活動助成の内容

基本助成額 年間20,000円 + 平成26年度社協一般会員数 × 100円

活動項目1 - 2 自治会福祉連絡会の活動強化

163か所でふれあい活動（喫茶、サロン）の取り組みが推進

自治会福祉連絡会やボランティア等が中心となり、自治会内でのつながりの場づくりや見守り活動、高齢者等の閉じこもり防止等を目的に行う「ふれあい活動」の推進に取り組みました。

支部名	ふれあいサロン		ふれあい喫茶	
	実施団体	回数	実施団体	回数
山崎	19	73	61	227
一宮	6	25	41	233
波賀	3	9	20	77
千種	1	12	12	47
合計	29団体	119回	134団体	584回

2つの自治会でふれあいサロンと喫茶がスタート

ふれあい活動が未実施の自治会には、コミュニティワーカーが事業の立上げやメニューの相談等の支援を行っています。

平成27年度は下記の自治会でふれあいサロンと喫茶が始まりました。

ふれあいサロン
今宿自治会

ふれあい喫茶
生谷自治会



寄って話すことが大事！
市内全域でサロンや喫茶が取り組まれています（写真は室自治会ふれあい喫茶）

ふれあい活動貸出備品で喫茶やサロンを支援

ふれあい喫茶やサロンで参加者に楽しんでいただけるよう、善意銀行預託金等を活用して整備した遊具やDVD、プロジェクターなどの貸し出しを行いました。

善意銀行預託金を活用

平成27年度貸し出し状況（一部紹介）

種類	貸出件数
ふれあい活動遊具	374件
液晶プロジェクター	83件
DVDソフト	27件
テント、大鍋等	39件
合計	523件
前年比	+18件



遊具を活用したメニューづくりが進んでいます
(7/23 東市場公民館)

自治会連絡会等へ職員を派遣

小地域福祉活動モデル地区など自治会福祉連絡会等に社協職員が出向き、地域の見守り活動やご近所ボランティア活動などについて説明をしたり、住民のみなさんと地域の課題について話し合いを行いました。



西深自治会ではケアマネが認知症について話をしました
(8/8 西深公民館)

派遣先

- 山崎 五十波自治会、青寿会老人クラブ（青木）
宇原地区福祉推進委員会、上ノ上ふれあいサロン、高齢者見守り隊「ひだまり」
- 一宮 西深福祉連絡会、生栖福祉連絡会、百千家満福祉連絡会
- 波賀 上野自治会、斉木自治会、原福祉連絡会
- 千種 中島福祉連絡会、千種福祉連絡会、岩野辺自治会、室福祉連絡会、千種郵便局

ふれあい喫茶ボランティア講座を開催

千種支部では、ふれあい喫茶の関係者に呼びかけ、地域で行われる「ふれあい喫茶」に地域の誰もが気軽に参加し、お茶を飲みながらいろいろなおしゃべりを楽しめるような雰囲気づくりについて考えました。

善意銀行預託金を活用

- 日程：9月8日（火）、9月15日（火）
- 会場：千種保健福祉センター 他
- 内容：須行名ふれあい喫茶見学
モデルふれあい喫茶の実施
- 参加人数：合計32名



モデルふれあい喫茶の様子（9/15 千種保健福祉センター）

活動項目 1 - 3 小地域福祉活動の担い手づくり

地域で活動する福祉委員を 782 名に委嘱

各自治会での小地域福祉活動推進の要となる福祉委員について、隣保ごとの設置を各自治会に依頼し、委嘱しました。

支部	山崎	一宮	波賀	千種	合計
福祉委員数	243名	241名	181名	117名	782名

「見守り」をテーマに福祉委員研修会を開催

今年度の福祉委員への研修は、「見守り活動」をテーマに共通の研修メニューを作成し、支部ごとに開催しました。

福祉委員研修会

テーマ：「はじめよう！あなたの地域の見守り活動
～ “支え合える” 仕組みづくりを考える～」

支部ごとの参加数

支部名	月 日	会 場	参加者
山崎	7月14日(火)	宍粟防災センター	82名
一宮	7月8日(水)	一宮保健福祉センター	101名
波賀	7月7日(火)	メイプル福祉センター	46名
千種	7月9日(木)	千種保健福祉センター	22名
合 計			251名

善意銀行預託金を活用



一宮支部福祉委員研修会
(7/8 一宮保健福祉センター)

「こころあったかカフェ」を2年目の取り組み

地域のつながりを深める機会を作ろうと、千種地域福祉推進委員会が始めた「こころあったかカフェ」は2年目の取り組みを行いました。

こころあったかカフェ

日 程：11月21日(土) 3月12日(土)

会 場：千種保健福祉センター

内 容：カフェ形式のワークショップ(学習会)
意見交換

ひとり暮らし高齢者等を招いての会食会 など

参加人数：合計82名

善意銀行預託金を活用



こころあったかカフェ
(11/21 千種保健福祉センター)

推進目標 2 宍粟市全域での福祉のつながり目標を進めます。

活動項目 2 - 1 新たなニーズに対応する当事者組織支援の強化

男性介護者の会は市北部でつどいを開催

毎月の定例会の実施や会報紙の作成など事務局として会の運営に係る支援を行いました。

また市北部域で開催された講演会について、事業の企画や運営等をサポートしました。

共同募金配分金を活用

男性介護者の会

日 程：毎月第3金曜日午後～

内 容：介護研修、調理実習
他の介護者の会との交流など

参加者数：117名



介護する人への支援を考える集い
(12/6 メイプル福祉センター)

介護する人への支援を考える集い in 波賀

日 時：12月6日(日)午後1時30分～

会 場：メイプル福祉センター

内 容：講演&交流会

「笑顔で認知症介護」

三田市男性介護者の会 竹中孝夫ご夫妻

体験発表 宍粟市男性介護者の会会員

意見交換

参加者：59名



男性介護者の会会報「男の介護第4号」

会報「男の介護(第4号)」の発行

発行日：3月31日(木)

発行部数：2,000部

地域の拠点施設で子育てサロンを開催

子育て中の親子が地域で気軽に集える場として、山崎支部、一宮支部では毎月子育てサロンを実施しました。

このサロンの運営にはボランティアや子育て支援センターなど多くの方に協力をいただいています。

善意銀行預託金を活用

子育てサロン

(山崎支部)

日 程：毎月第2金曜日午前10時～

会 場：宍粟防災センター

参加者数：352名

(一宮支部)

日 程：毎月第3木曜日午前10時～

会 場：三方町公民館

参加者数：164名

赤い羽根こども劇場に663名が参加

地域の施設を会場に、就学前の子どもたちがプロの人形劇を楽しむ機会として、毎年取り組む「赤い羽根こども劇場」。

今年は人形劇団京芸のみなさんをお招きし、3会場で663名が楽しみました。

赤い羽根こども劇場

内 容：人形劇団京芸

「いぬうえくんとくまざわくん」

「ひとがたくん」

「ゆかちゃんのおさんぽ」

月 日	会 場	参加者
12月9日(水)	一宮保健福祉センター	172名
12月10日(木)	城下幼稚園 2回上演	193名
		111名
12月11日(金)	メイプル福祉センター	187名
合 計		663名

福祉団体や老人クラブの活動をサポート

福祉団体アドバイザーを配置し、身体障害者福祉協会、婦人共励会、遺族会等の運営を支援しました。

また老人クラブ事務局として、単位老人クラブの活動を支援し、高齢者の生きがいや仲間づくり、健康づくり等に取り組みました。



市老連健康ウォーキング大会（10/6 波賀楓香荘周辺）

5つの福祉関係団体へ助成金を交付

各団体の自主的な活動を支援するため、助成金を交付しました。

団体名	会員数	助成金額
宍粟市身体障害者福祉協会	620人	127,740円
宍粟市共励会	41人	57,510円
宍粟市手をつなぐ育成会	105人	81,450円
宍粟市すぎの木家族会	48人	40,410円
宍粟市老人クラブ連合会	10,038人	219,600円
合 計	10,852人	526,710円

歳末たすけあい募金配分金を活用



劇団の人と記念撮影

善意銀行預託金を活用

新入学児童ランドセル購入助成事業

歳末たすけあい募金配分金を活用

平成28年4月に小学校に入学する子どもさんのおられる一人親家庭や両親ともおられない家庭を対象に、ランドセルを購入する費用の一部（上限2万円）を助成しました。

	平成27年度
助成件数	15件
助成金額	539,800円



利用者からのありがとうメッセージ

宍粟のみなさんからランドセルをプレゼントしてもらいました。みんなに応援してもらっているんですね。

おかげで子どもが気に入ったランドセルを購入することができました。

就学費用（生活福祉資金 教育支援資金）に関する相談に対応

高校や大学等への就学費用にお困りの母子世帯など低所得者世帯を対象に、生活福祉資金（教育支援資金）の利用について相談を受け、申請書類の記入等支援しました。

	平成27年度
相談件数	32件
新規貸付件数	3件
新規貸付金額	530,000円

高等学校への進学準備費用として利用されました。

活動項目2 - 2 地域や学校での福祉学習の強化

学校での福祉学習を推進

学校で行われる福祉学習について、コミュニティワーカーやボランティアコーディネーターが講師として車いすやアイマスク体験を指導したり、ボランティアや当事者などの協力を得て手話や点字等の体験を行うなど福祉学習を推進しました。



点字について学ぶ三方小学校の児童たち

福祉学習

教室数：市内12校で26教室開催

体験人数：576名

内容：車いす・アイマスク体験、点訳体験、手話体験など

地域での福祉学習を推進

千種支部では、千種郵便局で「福祉の学習会」を開催し、車いすや高齢者疑似体験などを行いました。

福祉学習会

月 日：2月9日（火）

会 場：千種郵便局

内 容：車いす体験、高齢者疑似体験



車椅子の介助を体験する参加者のみなさん
（2/9 千種郵便局）

活動項目 2 - 3 ボランティア・市民活動の強化

「セカンドライフ応援セミナー」では調理をテーマに開催

平成24年度から開催する退職世代を対象としたボランティア体験教室「セカンドライフ応援セミナー」は、4年目の取り組みとなりました。

今年度は食をテーマに、社協の栄養士などと一緒に配食サービスのお弁当をつくったり、災害時の炊き出し体験などを行いました。

セカンドライフ応援セミナー（4回シリーズ）

日 程：1月20日（火）～2月17日（火）

会 場：宍粟防災センターほか

内 容：「人生2つの10万時間の楽しみ方を学ぼう」

「巻きずし調理体験」「炊き出し体験」

「配食サービスのお弁当づくり」

受講人数：のべ21名

善意銀行預託金



炊き出しについて説明を受ける受講生
（2/10 メイプル福祉センター）

こどもホームステイ事業60周年記念フォーラムを開催

昭和30年から続くこどもホームステイ事業が60周年を迎えるのを記念し、「こどもの貧困」等今日の子育てについて考えるフォーラムを開催しました。

日 時：6月14日（日）午後1時30分～

会 場：一宮保健福祉センター

内 容：ホームステイありがとうメッセージ

記念フォーラム

「すべての子どもたちの幸せづくりのために

～子どもの貧困を考える～」

受講人数：約100名

共同募金配分金を活用



こどもの貧困について話すパネリストのみなさん
（6/14 一宮保健福祉センター）

6グループが新たにボランティアセンターに登録

平成27年度は 147グループ 2,079名のボランティアグループと個人ボランティア78名の登録を受付けました。

登録された147グループのうち、4グループが新規登録されたグループでした。

新規登録グループ

宍粟市「字かき歌」普及促進会 /Magic&マジック /ホット・カレン
こいぬのあしあと

ボランティアグループ登録状況

	グループ数	人数	前年比
登録グループ数	147G	2,079人	+1G
個人登録人数		78人	1人
合計人数		2,157人	54人

ボランティアグループへの活動助成

善意銀行預託金

宍粟市ボランティア・市民活動センターに登録し、継続的に活動をしているボランティアグループに活動費(上限15,000円)の助成を行いました。

	平成27年度	前年比
登録グループ数	147G	+1G
助成グループ数	120G	+3G
助成金額	1,800,000円	45,000円

ボランティア連絡会の活動を支援

宍粟市ボランティア連絡会及び各支部ボランティア連絡会の事務局として、宍粟市ボランティアのつどいの開催などその活動や運営を支援しました。

また、活動費として30万円の助成を行いました。

宍粟市ボランティアのつどい

日時：11月4日(水)

午後1時~3時

会場：メイプル福祉センター

内容：「楽しく活動を続けるために」

motto ひょうご事務局長 栗木剛先生

参加者数：93名

善意銀行預託金



栗木先生から健康について話を聞く

会員のみなさん(11/4 メイプル福祉センター)

地域福祉応援成事業で8団体の活動を後押し

4回目の実施となる「地域福祉応援成事業」には、8つの団体から応募がありました。6月15日に助成審査会を開催し、審査の結果申請のあった8団体に助成を行いました。

地域福祉応援成事業

助成団体：三方エプロンの会 / 染河内小学校
神戸小学校 / 一宮南中学校
宍粟市男性介護者の会/ホット・カレン
山の子グループ / 高齢者見守り隊「ひだまり」
助成金総額：291,000円



宅配のお弁当をつくるホット・カレンのみなさん

活動項目2 - 4 災害救援活動の強化

災害ボランティアセンター設置について 宍粟市との協定が成立

8月20日(木)宍粟市役所において、本会と宍粟市の間で「災害時におけるボランティア活動等に関する協定」を締結しました。

またそれと同時に、災害発生時に本会が運営するデイサービスセンターを福祉避難所とする協定も締結しました。



福祉避難所を設置する福祉施設の関係者と本会会長
(8/20 宍粟市役所)

市の総合防災訓練に初めて参加

宍粟市が実施する「総合防災訓練」に初めて参加し、行政や関係機関と連携した災害ボランティアセンター設置訓練を行いました。

宍粟市総合防災訓練

(災害ボランティアセンター設置訓練)
日時：11月1日(日)午前10時～
会場：山崎西小学校体育館
内容：災害ボランティアセンターの設置・運営訓練
参加職員：コミュニティーワーカー
ボランティアコーディネーター等10名



小学生に災害VCについて説明する本会職員
(11/1 山崎西小学校体育館)

災害ボランティア養成講座を開催

3回目の取り組みとなる「災害ボランティア養成講座」を開催しました。今回の講座では、被災地で災害ボランティアセンターの運営を経験した本会職員が講師を務めました。

災害ボランティア養成講座（3回シリーズ）

日 程：9月19日（土）～10月10日（土）

会 場：宍粟防災センターほか

内 容：「災害ボランティアの心得を学ぶ」
「人と防災未来センターへの視察研修」
「被災地で活動した体験談から学ぶ」など

受講人数：のべ38名



被災地での経験を語る本会職員
(10/10 宍粟防災センター)

災害の教訓を風化させない取り組みを推進

阪神淡路大震災や東日本大震災で亡くなった被災者を追悼するとともに、災害の教訓を風化させないための取り組みをボランティアのみなさんとともに行いました。

「1.17のつどい」に使用される竹筒は、宍粟市ボランティア連絡会やボランティアグループ「ふるべりい会」のみなさんと職員と一緒に竹伐りから竹筒の作成、文字入れまで行いました。

「1.17のつどい」の竹筒の作成

月 日：11月18日（水）

会 場：一宮保健福祉センター周辺

参加者数：40名

竹筒600本を作成



竹を加工するボランティア
(11/18 一宮保健福祉センター)

1.17ひょうごメモリアルウォークへの参加

月 日：1月17日（日）

行 先：神戸市立中央体育館

HAT 神戸

参加者数：45名

3.11のつどいの開催

月 日：3月11日（水）

会 場：社協4支部

参加者数：合計200名



ペットボトルの灯ろうを並べて行った3.11のつどい
(3/11 一宮保健福祉センター)

推進目標 3

地域での暮らしを支えるためのつながりづくりを進めます。

活動項目 3 - 1 総合相談事業の強化

社協は「暮らしや介護、福祉に関する総合相談窓口」

住民から寄せられる暮らしや介護、福祉等に関する様々な相談窓口として対応し、深刻な相談事例については、市役所や関係者との連携による解決に取り組みました。

ひとり暮らしの高齢者のみなさんには、「総合相談の窓口」としての社協を PR した特製カレンダーを歳末たすけあい募金配分金を活用して作成し、お配りしました。

そして、職員それぞれが受付けた相談については、「総合相談受付システム」に入力し、全体で内容の共有を図りました。

総合相談受付システムの入力	103件
主な相談内容	福祉サービスの利用に関すること 配食サービスの利用に関すること 小地域福祉活動の推進に関すること 介護保険の利用等介護に関すること
	など

「お困りごとは社協へ」の文字が入ったカレンダーをひとり暮らし高齢者等に配布し、社協が総合相談の窓口であることを PR しました。

歳末たすけあい募金配分金を活用

社協特製カレンダーの配布

対象：75歳以上のひとり暮らし高齢者

配布人数：774人

「お困りごとは社協へ」の文字が入ったカレンダー



未婚の男女の出会いをお手伝い

結婚相談・宍粟市出会いサポート事業を推進

宍粟市から「宍粟市出会いサポートセンター」の運営の委託を受け、結婚相談の実施や未婚の男女の出会いの場となる交流イベントの開催などに取り組みました。

結婚相談員の設置と結婚相談所の開設（24回開催）

結婚相談員24名が結婚相談所を開設し、未婚の男女の出会いに関する相談や紹介などに対応しました。

日時：毎月第1、第3木曜日 午後1時30分～

会場：宍粟防災センター

相談件数：48件



毎回3名の結婚相談員が対応しています

結婚相談員活動実績

活動回数	相談件数	紹介件数	見合い件数	成立件数
740回	631件	187件	56件	4件

結婚相談員研修会

月 日：7月23日(木)

会 場：宍粟防災センター

内 容：「素敵にマッチング～心に寄り添う相談員」
講師 夢こらぼ 松尾やよい先生

出席数：20名

交流イベントの実施

『婚活セミナー&交流会

恋する大人のクリスマスパーティー2015』

『蒲鉾工場見学&お買い物ツアー』

『婚活しませんか！～棚田のあかり(山田)～』

『会ってみよう 5vs5』



恋する大人のクリスマスパーティー
(12/20 ホテルサフラン)

参加者数：78名(男性43名、女性35名)

カップル成立数：16組

成婚数と交際件数

事業名	成婚件数	交際中
結婚相談	4組	1組
出会いサポート	1組	4組
合 計	5組	5組



ホテルbuffetでの懇親会
(3/13 赤穂ロイヤルホテル)

弁護士による無料法律相談所を開設

年々増加する法的トラブルについて対応するため、弁護士による相談を6回開催しました。
毎回開催をお知らせするとすぐに予約が埋まり、キャンセル待ちの対応をするほどの状況でした。

無料法律相談 (6回実施)

弁護士：平野晃子弁護士(本会福祉サービス利用援助事業担当弁護士)

5回担当(4, 6, 10, 12, 2月)

関西大学法科大学院

1回担当(8月)

相談件数：45件

主な相談内容：相続について(10件)

離婚や子どもの親権について(5件)

金銭問題について(3件)

家族の問題について(3件)



活動項目 3 - 2 権利擁護活動の推進

福祉サービス利用援助事業はさらに推進

福祉サービス利用援助事業は、新たに 7 件の新規契約があり、3 月末の契約利用者数は 25 件となりました。

障害者相談支援センターの活動が広がっていることや、平成 28 年度にたつの市社協に「西播磨成年後見支援センター」が設置されること等により、さらにこの事業への相談や新規契約者が増えることが予想されます。

福祉サービス利用援助事業

	件数	前年度比
新規利用件数	7 件	1 件
解約（死亡、入所により）	1 件	5 件
利用件数	25 件	2 件
生活支援員派遣回数	550 回	111 回
相談件数	678 件	81 件

西播磨成年後見支援センターの設置協議に参加

西播磨圏域（4 市 3 町）で成年後見支援センターを共同で設置するための「西播磨成年後見支援センター設立準備会」に本会局長が参加しました。協議により平成 28 年度にたつの市社協に「西播磨成年後見支援センター」が設置されることとなりました。

また、役職員業務研究会第 4 班の研修として、法人後見を実施する鳥取県智頭町社協に出向き、法人後見制度や市民後見制度等について研究しました。

活動項目 3 - 3 新しい地域福祉サービスの開発・実施

「あったか灯油配達サービス」は 2 回目の実施

歳末たすけあい募金配分金を活用した歳末たすけあい事業について、昨年度から始めた「あったか灯油配達サービス」を引き続き実施しました。

また、昨年度実施を中止した「雪かきサービス」については、市北部域からの要望が高く、サービスを復活させました。

歳末たすけあい事業

サービス名	利用数	前年比
歳末特別給食サービス	476 人	27 人
あったか灯油配達サービス	238 人	8 人
雪かきサービス	65 回	

歳末たすけあい募金配分金を活用



配達には石油業組合にお願いしました

「食の生活支援パンフレット」を作成

役職員業務研究会での研究として、ひとり暮らし高齢者等が安心して生活するための「食の生活支援パンフレット」を作成しました。

このパンフレットは、市内でお弁当の宅配をする業者を紹介し、買物や調理が困難な高齢者や障がい者の生活を支援するものです。

平成28年度にはこのパンフレットを印刷し、コミュニティワーカーやケアマネ等が活用するほか、必要とする方にお配りする予定です。



完成した「食の生活支援パンフレット」

活動項目 3 - 4 限界集落化していく地域での福祉活動の推進

出前ふれあいサロン、お達者クラブを実施

27年度も波賀第6ブロックと山崎町小茅野で開催しました。参加者には健康体操やレクリエーションやおしゃべりを楽しんでいただいたり、「暮らしの何でも相談所」としてコミュニティワーカーや介護予防事業担当者等が毎日の生活でお困りのことや健康相談などに対応しました。

	実施地域	実施回数	参加人数
出前お達者クラブ	山崎町小茅野	5回	31名
第6ブロックのつどい	波賀町北部地域	6回	139名
合計		11回	170名

地域からの要望で「雪かきサービス」を復活

昨年度中止をした「雪かきサービス」について、市北部域のひとり暮らしの高齢者や民生委員からサービスの実施を望む意見が多く寄せられたことから、サービスを復活させました。

平成27年度は積雪が少なく、サービスの利用は市全体で65回となりましたが、市北部域の高齢者にとってこのサービスが、冬場安心して生活するためには欠かせないサービスであることがよくわかりました。

歳末たすけあい募金配分金を活用

雪かきサービス

実施期間：平成27年12月7日(月)～平成28年3月18日(金)

利用対象者：70歳以上のひとり暮らしの方、二人暮らし高齢者世帯等

利用回数：65回

推進目標 4 社会福祉協議会の基盤強化を進めます

活動項目 4 - 1 幅広い住民が社協活動に参加できる仕組みづくり

第3次地域福祉推進計画を策定

6月に第3次地域福祉推進計画策定委員会を立ち上げ、第3次地域福祉推進計画（支え合いふくしプラン）の策定に向けた取り組みを進めました。

また職員による作業部会も設置し、推進目標や活動項目など計画の具体的内容などを事前に協議しながら、策定委員会に提案していきました。

第3次地域福祉推進計画は、平成28年6月完成する予定です。



策定委員会の様子（第6回策定委員会）
（11/26 一宮保健福祉センター）

第3次地域福祉推進計画策定委員会

日時：6月22日（月）～3月25日（金）
毎月1回開催
平成27年度 10回開催
会場：一宮保健福祉センター

作業部会

日時：7月15日（水）～3月23日（水）
毎月2回開催
平成27年度 23回開催
会場：メイプル福祉センター ほか

理事会は第6期体制がスタート

7月1日に開催した第104回理事会で森本会長を再任するなど、理事会は平成27年度もほぼ毎月1回のペースで年間11回開催しました。

また10月理事会（第107回理事会）では、「2015年改正介護保険における生活支援コーディネーターと協議体」について学習会を行いました。



第6期理事のみなさん（7/1 一宮保健福祉センター）

リニューアルしたホームページで情報発信

新しくなったホームページを活用し、社協事業や住民のみなさんが取り組む小地域福祉活動、ボランティア活動など地域の福祉情報を発信しました。

新しいホームページは画面が大きく、社協行事やサービス実施日などが確認できるカレンダー機能の設定や、申請書等资料がダウンロードしやすくするなどの工夫をしています。

社協広報紙も毎月発行し、福祉情報を発信しました。

「こんにちは！社協です！！」の発行

発行回数：12回（第118号～129号）

発行部数：14,400部



新しくなったホームページと広報紙

役職員業務研究会の成果は3次計画に活かす

理事と管理職員、地域福祉担当職員などが4つの班に分かれ研修、研究を行う役職員業務研修会。

4年目の取り組みとなる今年度は、第3次地域福祉推進計画の中で重点的なテーマとなる4つの課題について研修・研究を行いました。また昨年度からの課題である「食の生活支援パンフレット」の作成について、特命班が取り組みました。

研究の成果は、3月6日(日)に発表会を開催し、理事や評議員、支部地域福祉推進委員、介護事業職員などに発表し、全体で共有しました。

第1班	テーマ	社会福祉協議会の自主財源の確保方策について
	メンバー	猶原副会長、伊藤理事、薄木理事、平岡理事、春名章、山本、野口
第2班	テーマ	今回の介護保険制度改正を踏まえた生活支援サービスのあり方について
	メンバー	野村副会長、朽尾理事、山根理事、岩路理事、山本局長、波多野、横山、田中、坂本、猪尾
第3班	テーマ	宍粟市における集落福祉のあり方と地域拠点型福祉サービスの開発について
	メンバー	安積副会長、山田理事、植田理事、大谷理事、春名豊、森井、吉田、三宅
第4班	テーマ	権利擁護事業、総合相談事業を踏まえた社協の法人後見について
	メンバー	森本会長、梶本理事、志水理事、山本局長、前野、小原、谷口、椴谷
特命班	テーマ	「食の生活支援パンフレット」の作成
	メンバー	可藤次長、中野、赤松

役職員業務研究会発表会

日時：3月6日(日)午後1時30分～4時

会場：宍粟防災センター

参加者数：90名

理事、評議員、支部地域福祉推進委員など



役職員業務研究会発表会で発表する本会職員

市内の社会福祉法人の連携を強化するために

平成27年度末に行われた社会福祉法の改正により、社会福祉法人が地域においてネットワークを形成し、地域の様々な福祉ニーズに対応できる体制を構築することが必須となりました。

宍粟市にある高齢者、障がい者、児童など11法人による連携会を立ち上げるため、意見交換会を開催しました。

宍粟市社会福祉法人連絡協議会(仮称)設置に向けた意見交換会

日時：3月18日(金) 午前10時～

会場：一宮保健福祉センター

参加団体：7団体

活動項目 4 - 2 支部地域福祉推進委員会の活性化

支部地域福祉推進委員会で支部活動を推進

支部活動の要となる「支部地域福祉推進委員会」を開催し、地域の活動について情報を交換したり、支部かわら版の発行などについて協議しました。

一宮地域福祉推進委員会
(3/3 一宮保健福祉センター)



「支部かわら版」で地域の福祉情報を発信

より身近な地域の福祉活動の情報を住民のみなさんにお知らせする「支部かわら版」。

地域福祉推進委員や社協理事が編集委員として取材や記事の執筆等を分担し、各支部 2 回ずつ発行しました。

善意銀行預託金を活用

4つの支部で発行したかわら版



「あったかカフェ」は 2 年目の取り組みを実施

千種地域福祉推進委員会が、昨年度から気軽に関係者や住民が集まり地域のつながりを深める機会をつくらうと開催した「こころあったかカフェ」。

今年度はひとり暮らし高齢者等を招いての食事会などに取り組みました。

P11 活動項目 1 - 3 に記載。

活動項目 4 - 3 地域福祉活動財源の安定的確保

住民のみなさんの協力で社協の活動財源を確保

住民のみなさんに協力をよびかけ、地域福祉を推進のための社協の自主財源として「善意銀行預託金」「社協会費」「共同募金」などをご協力いただきました。

善意銀行預託金

	一般預託	善意月間預託	平成 27 年度合計	前年度比
件数	332 件	10,481 件	10,813 件	108 件
金額	8,352,201 円	4,404,610 円	12,756,811 円	263,479 円

一般会費

	平成 27 年度	前年度比
件数	10,843 件	86 件
金額	10,825,300 円	99,300 円

賛助会費

	平成 27 年度	前年度比
件 数	941 件	25 件
金 額	2,408,081 円	117,081 円

共同募金

	平成 27 年度	前年度比
件 数	11,191 件	244 件
金 額	8,184,975 円	268,527 円

歳末たすけあい募金

	平成 27 年度	前年度比
件 数	10,484 件	34 件
金 額	3,833,986 円	104,860 円

活動項目 4 - 4 職員の育成と研修の強化

職員研修を計画的に取り組む

新任職員を対象とした初任者研修や、常勤職員を対象にした「目標考課設定に関する研修会」「2015年改正介護保険における生活支援コーディネーターと協議体」等職員研修を開催しました。また介護部門全体による合同研修会では、困難事例の検討等を行いました。そして、県社協や西播磨リハビリテーションセンターなど外部機関が主催する研修会にも参加するほか、自主的に研修に参加する職員もあり、日頃から知識や技術の習得に努めています。

内部研修会実施の状況（会場：一宮保健福祉センター）

月日	研修内容	人数
4月13日（月） 午前10時～午後4時	宍粟市社協新任職員研修 （社協活動総論 ・ 介護保険論 ・ 接遇研修）	13名
4月15日（水） 午後6時30分～	目標考課設定に関する職員研修会	52名
8月24日（月） 午後6時30分～	2015年改正介護保険における生活支援 コーディネーターと協議体	81名
11月22日（日） 午後2時～	スーパービジョンによる人材育成について	66名

人事考課は「部署目標」と「自己目標」を設定

部署ごとに設定した「部署目標」と部署目標を基に職員ひとり一人が設定した「自己目標」の実現に向けて取り組みました。

目標の達成については、年度末に自己評価や振り返りを行うとともに、同僚による「1次評価」

と上司による「2次評価」を行い、次年度の業務につながるようにしました。

平成28年度は、中間評価を取り入れることで、人事考課制度が職員の育成や社協組織の強化につなげていきます。

職員の資格取得状況

平成27年度は新たに社会福祉士や介護福祉士、介護支援専門員の資格を取得する職員はありませんでした。28年度もこれらの資格の取得を奨励し、社協組織の強化につなげていきます。

職員の資格取得状況 (H28.4.1 現在)			
社会福祉士	8名	介護福祉士	42名
介護支援専門員	24名	精神保健福祉士	1名

活動項目4 - 5 安定した介護保険事業経営をめざす取り組み

「ゆめぷらん」は様々な相談に対応

「相談支援センターゆめぷらん」では、障害福祉サービスの計画策定だけでなく、障がいをお持ちの方やその家族が抱える様々な相談にも対応しています。福祉サービス利用援助事業や外出支援や福祉有償運送事業など本会が実施するサービスの利用につなげたり、保健師や作業所等関係者と連携して対応するなど問題の解決に努めました。

(実績は後述のとおり)

28年3月末での社協障害福祉事業所の事業活動収支差額一覧表 (単位:千円)

サービス区分	サービス活動収益			サービス活動費用			サービス活動増減差額				
	28年3月	27年3月	比較	28年3月	27年3月	比較	28年3月	27年3月	比較	率	
居宅介護	みなみ	10,531	8,557	1,973	3,798	3,598	191	6,741	4,958	1,782	136%
	きた	4,256	4,498	242	3,721	3,690	31	535	808	273	66%
		14,787	13,055	1,731	7,511	7,288	222	7,276	5,767	1,508	126%
相談支援	8,483	9,801	1,318	8,042	7,218	823	441	2,583	2,142		
障害事業合計	23,271	22,857	413	15,553	14,507	1,046	7,717	8,350	633	92%	

「週始め幹部会議」を毎週開催

週の始めとなる毎週月曜日の業務開始前に事務局長と次長2名が本部に集まり、その週の予定や業務の確認、社協の財政状況や課題等を協議する「週始め幹部会議」を毎週開催しました。

幹部会議で協議したことは、課長・支部長や各担当者に指示し、業務の推進につなげています。

職員会議の定期的開催

地域福祉部門では、広報編集会議やボランティア担当者会議を毎月開催し、社協全体の課題の共

有や事業の推進について協議しました。

介護部門では、「介護職員リーダー会議」として各事業所の管理者やサービス提供責任者が毎月集まり、利用者に安心なサービスを提供するため、情報交換等を行いました。

さらに、「やすらぎ介護センター」「ヘルパーステーションみなみ」「ヘルパーステーションきた」「しろう入浴サービス」の各サービス提供事業所のスタッフ会議の開催、そして、4つの居宅介護支援事業所の介護支援専門員12名が集まる「社協ケアマネ調整会議」も毎月開催しました。

介護報酬の改定を受け、介護事業全体で1,243万円の赤字

社協の介護保険事業所全体の収支差額は、前年度（平成26年度）比で15,941,458円の減収、16,082,294円の減益で、12,436,980円の赤字決算となりました。

これは、平成27年4月からの介護報酬の改定の影響が大きく、訪問介護事業が720万円の減収、通所介護事業が485万円の減収、訪問入浴事業が245万円の減収となったにもかかわらず、費用が通所介護事業で335万、訪問入浴事業で30万円増えたことによるものです。（訪問介護事業の費用は166万円の減）

居宅介護事業については前年度に比べ143万円の減収となりましたが、費用が185万円減少したことで、807万円の黒字となっています。

なお、訪問介護事業では「みなみ」が670万円、「きた」で50万円、2つの事業所で合計720万円の減収となっています。



介護スタッフが全員集まってケース検討会を開催



デイサービスではデイ・ボランティアのつどいを開催

28年3月末での社協介護保険事業所の事業活動収支差額一覧表

（単位:千円）

サービス区分	サービス活動収益			サービス活動費用			サービス活動増減差額				
	27年3月	27年3月	比較	27年3月	27年3月	比較	27年3月	27年3月	比較	率	
居宅介護支援事業	山崎	22,917	19,583	3,334	21,057	16,243	4,814	1,859	3,340	1,480	56%
	一宮	16,059	17,826	1,767	16,107	16,449	342	47	1,376	1,424	3%
	波賀	16,683	15,672	1,010	13,094	13,459	364	3,588	2,212	1,375	162%
	千種	10,914	14,929	4,014	8,244	14,204	5,959	2,669	724	1,945	368%
		66,575	68,011	1,435	58,504	60,357	1,852	8,070	7,654	416	105%
訪問介護	みなみ	42,209	48,909	6,700	49,887	50,291	403	7,678	1,381	6,296	556%
	きた	20,290	20,792	502	21,984	23,244	1,260	1,694	2,452	758	69%
		62,499	69,701	7,202	71,871	73,535	1,664	9,372	3,833	5,538	244%
通所介護		74,439	79,290	4,850	79,273	75,922	3,350	4,834	3,367	8,201	144%
訪問入浴介護		9,249	11,702	2,452	15,550	15,244	305	6,301	3,542	2,758	178%
介護保険合計		212,763	228,705	15,941	225,200	225,060	140	12,436	3,645	16,082	341%

居宅介護支援事業は「やまさき」を4名体制に

居宅介護支援事業は、平成27年度から、利用者がなかなか増えなかった「ちくさ」について、ケアマネを1名減の2名体制とし、利用者の増加が期待される「やまさき」でケアマネを1名増の4名体制にしました。「いちのみや」「はが」については、3名体制を継続しました。

その結果「やまさき」では、費用が481万円増えましたが、収入は333万円増えました。

「ちくさ」については、収益は401万円減となりましたが、費用が595万円減少したことで、前年度に比べ194万円増益の266万円の黒字となりました。

平成28年度は、さらに利用者の増加が期待される「やまさき」でケアマネを1名増の5名体制とし、利用者が伸びない「はが」を1名減の2名体制にするなど、経営の強化を図ります。

訪問入浴介護事業はさらに赤字がふくらみ、経営改善が課題

前年度に比べ収益が245万円減少したのに対し、費用は30万円増えたことにより、前年度354万円であった赤字がさらにふくらみ、630万円の赤字決算となりました。

この原因は、26年度年間254件あった利用者数が、191件と約4分の3に減少したことによるものです。（延べ利用者数は828件から721件へ減少）

訪問入浴については、新たな利用者があっても、ターミナル状態のため数回の利用で終了したり、体調不良によるキャンセルが多いなど、利用者および利用者数が安定していないことが以前からの課題となっていました。この問題の解決は難しい状況です。

そのため平成28年度は、専属の運転員の配置をやめ、指定基準である看護職員1、介護職員2の3名体制でサービスを提供することで、費用を削減し、経営の改善を目指します。

訪問介護事業の経営改善が課題

平成25年度から大幅な赤字が問題となっている訪問介護事業では、「みなみ」で670万円、「きた」で50万円の減収となりました。

これは、介護報酬の改定に加え、年間の利用件数が「みなみ」が介護で42件減少したことや、「きた」では介護の年間利用件数が115件増えても介護予防で89件減少するなど、利用者が増えないことが原因です。

利用者が安定している障がいヘルプを加えても、「みなみ」で93万円、「きた」で115万円の赤字となり、訪問介護事業の立て直しが緊急の課題です。

平成28年度は、新たな利用者の発掘が見込まれる山崎域でヘルパーを重点的に配置し、それに合わせて「みなみ」の本拠を山崎支部に変更することや、「ゆめぼらん」など障害相談事業所との連携により障害ヘルプの利用を進めていくこと等により、経営の改善を図ります。

通所介護事業は利用者が1割減少

通所介護事業では、介護報酬の改定に加え、前年度815件あった介護の利用者が724件と約1割減少したこと等により、485万円の減収となりました。

そのような状況で、利用者お一人おひとりの状態にあわせた対応を強化しようと看護師資格のある正規職員を1名異動により配置したことで、費用が335万円増え、前年度336万円の黒字であったものが483万円の赤字となりました。

平成28年度は利用者ごとの個別対応を強化することや、社協らしさを活かしたサービスの提供を目指すことにより、新たな利用者の獲得を目指すなど経営の改善を図ります。

別記 その他の社協事業の取り組み

外出支援サービスと福祉有償運送事業

外出支援については、市の公共交通が再編され、市内くまなくバスが運行されることになったことで、市の要綱の見直しが行われ、平成 28 年 4 月からは要介護 3 以上の方を対象とすることになりました。

また、事業者についても見直しが行われ、外出支援についてはタクシー業者のみに委託されることとなり、本会は独自事業である有償運送事業のみを行うことになりました。

外出支援については、利用者数、利用回数ともほぼ前年度なみの実績でした。

市からの補助金については、前年度と同様に「運行距離」と「運転員の運転時間」について毎日厳密に記録をとり、それを積み上げ有償運送事業との割合により補助金額が決められました。

平成 27 年度は有償運送事業に利用が減ったことで外出支援の割合が上がり、その結果、市からの補助金については、前年度に比べ 129 万円増の 1,138 万円となりました。

毎年の課題となっていた赤字の問題についても、補助金収入が増えたことで 136 万円の増益となり、最終の赤字額は 88 万円。前年度の赤字 178 万円に比べ大幅に改善されました。

福祉有償運送事業については、平成 27 年 7 月から「迎車回送料金」を設定したことで、前年度に比べ利用回数が 2,557 回から 2,171 回と減少しましたが、利用料収入は約 14 万円増加しました。

しかし、事業実施の課題となる赤字については、前年度 35 万円であったものが、57 万円と増えています。

これは、運転員の人件費等経費が増えたことによるもので、外出支援の利用対象とならない作業所や施設への送迎になくはならないこのサービスにとって、解決の難しい問題です。

送迎サービスの収支状況表（外出支援と福祉有償運送事業）

項目	27年度	26年度	比較
収益	15,959,121	14,441,910	1,517,211
費用	18,168,493	17,462,917	705,576
増減差額	2,209,372	3,021,007	811,635

外出支援サービス収支状況表

項目	27年度	26年度	比較
収益	12,979,111	11,602,610	1,376,501
費用	13,866,241	14,274,243	408,002
増減差額	887,130	2,671,633	1,784,503

福祉有償運送事業収支状況表

項目	27年度	26年度	比較
収益	3,731,010	2,839,300	891,710
費用	4,302,252	3,188,674	1,113,578
増減差額	571,242	349,374	221,868

配食サービス事業

配食サービス事業については、前年度に比べ、食数が1,403食減少し、利用者数も291名少なくなっています。この原因は、利用者が入院、入所された。デイサービスの利用が増えたなどの理由によるものです。

事業運営を安定したものにしようと、平成26年度中に利用料を100円アップし1食400円としましたが、そのことで利用料収入は食数が減ったにもかかわらず13,000円の増収となりました。

しかし事業全体としては、常勤2名の職員を配置していることで、350万円を超える赤字を計上しました。

平成28年度は配食を担当していた職員が定年退職することから、栄養士1名のみをこの事業の専任の職員とし、コミュニティワーカーが協力して事業を行うことで、赤字の改善を図ることにしています。

項目	27年度	26年度	比較
収益	8,487,210	8,543,225	56,015
費用	12,059,361	12,479,618	420,257
増減差額	3,572,151	3,936,393	364,242

介護予防普及啓発事業（1次予防）と通所型介護予防事業（2次予防）

介護予防普及啓発事業は、元気で活動的な高齢者を対象に集団で行う通所型の介護予防事業であり、通所型介護予防事業は、特定高齢者として市が認定した高齢者の通所型介護予防事業です。

一宮支部は2次予防のみ実施し、他の3支部では1次と2次予防事業の両方を行っています。

この事業については、赤字の状況が以前から続いていましたが、平成27年度は、前年度427万円であった赤字が、266万円と縮小し改善が図れました。

これは、26年度は職員8名のうち常勤が6名であったものを、27年は常勤5名、非常勤3名の体制にしたことによるものです。

平成28年度は8名の職員を常勤4名、非常勤4名の体制にすることで、経営の改善を目指します。

項目	27年度	26年度	比較
収益	24,206,930	24,481,650	274,720
費用	26,875,773	28,757,595	1,881,822
増減差額	2,668,843	4,275,945	1,607,102

介護職員初任者研修事業

「介護職員初任者研修事業」は2回目の取り組みとなりました。

5月初旬に兵庫県（龍野健康福祉事務所）に事業申請を行い、7月15日から受講生の募集を開始。11名の方にお申込みいただき、9月12日から研修をスタートしました。

講義や演習の指導は、本会の介護福祉士、ケアマネジャー等が担当しました。

お申込みいただいた11名の方全てが1月31日に全過程を無事終了され、2月28日の修了式で本会会長が修了証を授与しました。

宍粟市社協発足 10 周年記念事業

平成 17 年 7 月 1 日に旧宍粟郡内の 4 つの社協が合併し、宍粟市社協が誕生して 10 周年になることから、記念事業として、講演会の開催と記念誌の作成に取り組みました。

記念講演会に 700 名が参加

9 月 6 日（日）山崎文化会館で実施した記念講演会。第 1 部の式典では、合併後社協活動に貢献いただいた理事や相談員、ボランティアグループへの表彰を行いました。

また第 2 部の講演会では、東日本大震災で津波や火災で損傷を受けた遺体を生前の姿に戻す「復元ボランティア」として活動された笹原留以子さんから、被災者支援や子どもたちに命の大切さを伝える活動についてお話いただきました。

社協 10 周年記念講演会

日 時：9 月 6 日（日）午後 1 時～ 4 時

会 場：山崎文化会館 大ホール

内 容：第 1 部 記念式典

オープニング 杉の実コーラス
表 彰 社協功労者表彰 社協役員 4 名 結婚相談員 9 名
福祉活動功労団体 89 団体
宍粟市ボランティア連絡会 ボランティアグループ 88 G
感謝状贈呈 ハリマ農業協同組合

第 2 部 記念講演会『心のおくりびと 3.11 大震災から』

笹原 留以子さん（復元納棺師 岩手県北上市）

参加者：700 名 理事、評議員、自治会長、福祉委員、民生委員、ボランティア等



会長から表彰を受ける
ボランティア連絡会の代表者



命の大切さについて話をする
笹原留以子さん



講演会終了後、笹原さんの
サイン会には長い列が

10 周年記念誌を 700 部作成

編集委員会を立ち上げ取り組んだ 10 周年記念誌「宍粟市社協 10 年のあゆみ」は、1 月に完成し、理事、評議員、退職した職員などにお届けしました。

発足 10 周年記念誌「宍粟市社協 10 年のあゆみ」

発行日：平成 28 年 1 月

作成部数：700 部

内 容：10 年間で取り組んだ事業、市民からのメッセージ ほか



完成した 10 周年記念誌